

陥入爪の治療

陥入爪とは

(かんにゅうそう)

爪が皮膚に食い込むことを『陥入爪』と言います。

『陥入爪』が起きやすいのは、圧倒的に足の親指です。もともと巻き爪があるケースはもちろんですが、それ以外にも、深爪したことがきっかけとなるケースがあります。

意外に知られていませんが、爪は「角切り」に近い形に切つて、爪の角が皮膚よりも前に出ていることが理想的です。しかし、痛みを訴えて受診される患者さんの過半数は、爪の角を深く

皮膚科医師 高木真知子



切り込んでいます。

切り込まれて皮膚

に埋もれた爪は、

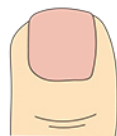
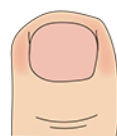
荷重時にさらに食

い込んで痛みを生じます。

周囲の皮膚は赤く腫れ、ひどい時には、出血しやすいじくじく

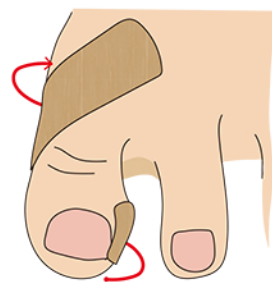
した「お肉」へと表現しておきます(が盛り上がって爪に覆い被さりませす)。

このような症例は、消毒やぬり薬、抗生剤内服だけでは、何ヶ月治療しても治りません。皮膚に爪が食い込むことを解決する必要があります。



陥入爪の治療

簡単に行える方法として、皮膚を爪から遠ざけるようにテープで引っ張るという手段があります(図参照)。



これを数週間続けるだけでも、ある程度の症例は治ります。食い込みが強い場合には、当たっている爪を切除することもあります。

これらの処置で炎症が鎮静化した後も、特に深爪になつている場合には治療終了とはいきません。埋もれた爪が伸びるとともに、再び皮膚に食い込む恐れがあります。そこで、爪が良い長さになるまでは、テープ法

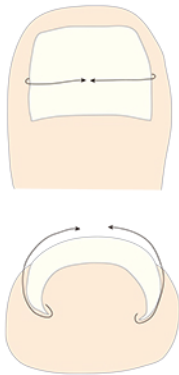
を続けます。

巻き爪の場合、

巻き爪の患者さんの痛み対策としては、爪を開く『矯正』も選択肢となります。

当院では、『VHO式巻き爪矯正法』を行つていきます。

爪の左右にそれぞれワイヤーをかけて、爪の真ん中でこれらを引き寄せ、固定します(図参照)。



爪の先端に装具をつけるだけの矯正と比べ、より基部から爪を開くことができます。初回の装着後から、痛みは改善することがほとんどです。2ヶ月おきにワイヤーをかけ直して、およそ